

## 平成28年度岡山大学入学式式辞

本日ここに、ご来賓ならびにご家族のご臨席をいただき、学部学生2,412名、大学院学生1,046名、総計3,458名の新入生、そして17カ国から121名の海外留学生が一同に集まり、平成28年度岡山大学入学式を挙行いたすこと、本学にとりましてまことに喜ばしいことであります。

皆さんは、この岡山大学を“最高学府”として選び、たゆまぬ努力と、数々の難関を乗り越えて、本日、この日を迎えられました。岡山大学を代表しまして、心からのお祝いと、歓迎の意を表します。

岡山大学は、今から145年前、1870年に創設された岡山藩医学館を起源とする岡山医科大学、1900年に創立された旧制第六高等学校、1914年、倉敷の大原家によって設立された、大原奨農会農業研究所など、いずれも100年以上の歴史を持つ優れた高等教育機関を統合して1949年、新製の国立大学として設立された大学であります。

そして、現在は、11の学部、7大学院研究科、3つの研究所、附属病院、附属学校を持ち、本日入学の皆さんを加えて、1万3000人を超える学部学生と大学院生、また世界各国から約700人の海外留学生、さらには教職員を加えて約2万人を超える大学人が、世界に貢献する大学としてこの岡山大学のキャンパスにおいて知を創造し、輝かしい研究に取り組む全国屈指の総合大学として発展してまいりました。

岡山、倉敷にある美しく広大なキャンパスは、緑豊かに広がり、「晴れの国」、気候は温暖にして、災害の少ない安全・安心の地に存在します。皆さんが掛け替えのない青春を過ごし、勉学に励み、心と身体を鍛える場として、最適な環境であります。この恵まれたキャンパスは、先人のご尽力の賜物であり、とりわけ、第六高等学校の最後の校長、黒正巖先生のイニシアティブと、岡山県民の多大な支援により与えられたものです。

岡山大学の掲げる理念は「高度な知の創成と的確な知の継承」であります。私たち大学人は、常に学問を探究し、新たな研究に挑戦し、知識を次世代に伝え、教育を通して優秀な人材を育て社会貢献する、これが私達のミッションであり、今日からの皆さんのミッションでもあります。

言うまでもなく、今、日本社会は、大きな変革期を迎えており、大学も例外ではありません。科学技術の世界は、すさまじいスピードで進歩しており、人工頭脳は、人間の頭脳に勝る場面もすでに現れ、車の自動運転も目の前にあります。

今、役立つ知識も、いずれ遅れた知識へと変化し、10年後、今の職業の半分は存在しないとまで言われています。

他方で、世界の社会状況は100年前に回帰したようにも思われます。世界の各地で発生する国家間の対立、宗教間の対立から地域紛争、社会が無秩序化し、その結果、EUにおけるシリア難民の激増、パリ、ブリュッセルの同時多発テロ、いまだ冷戦の遺物と思わせる朝鮮半島情勢、核の拡散など平和とはかけ離れた状況が続いています。

私たち日本の生活も大きな危機に直面しており、この世界の趨勢に無縁ではられません。少子高齢化を伴う、人口減少、長引く経済不安、5年前の東北大震災は私たちの自然に対する無力を如実に示し、いまだその傷跡から脱しきれません。それに伴う福島原発事故は、その苦しみから、さらに50年、100年かけての解決が必要であります。

これまでの思考の枠組みでは、これからの日本社会は維持できなくなると思われます。

岡山大学では今まさに、これからの日本、世界の変化に対応できる人材を育て、社会に対して責任を果たせる大学になるべく大きなビジョンを掲げ、創立以来の大改革を行っている真最中であります。

皆さんが、今日、ここにおられるのは、皆さん自身の意思で岡山大学を選択した結果であります。皆さんの自らの意思として、我々と共に、世界から人と知がわが大学に集まる「美しい学都」形成の担い手として参加していただきたいと思えます。

岡山大学では、この平成28年度より、日本の大学では初めて全学部において「60分授業・4学期制」を導入し、「学びの強化」を進化させました。

皆さんが受ける岡山大学の教育は、PRIMEプログラムと称し、先進的な高度な専門知識を学ぶと同時に、幅広い教養、実践力、そしてグローバルな力を身に着けるものであります。

実践知とは、“自ら置かれた立場で、自ら判断して、自ら解決できる能力”を言います。大学内のキャンパスを超えて、社会の現場と触れ合う中で、自らの人間力、判断力、決断力、指導力を養う教育であります。

皆さんは、4年間ないし6年間で、自分の専門分野の高い知識を固めるとともに、自らの感性を豊かに、創造力を研ぎ澄ませることもますます重要になってき

ます。さまざまなアート・芸術に触れ、自らの創造力を涵養することは非常に大切であり、世界をリードする諸大学では、学生の創造性の涵養に並々ならぬ努力を払っています。狭い専門知識の果実だけでは、この現代社会の変化に対応することができないからです。

さらに、皆さんは世界を見据え、世界に通用するグローバルな力を身に着けなくてはなりません。世界に通用する人材となるためには、現在の世界共通言語である英語が話せることが前提となります。今世界中の学生は、世界の大学に向かって飛び立ち、半年、1年を海外の大学や社会で学ぶ機会は当たり前になっています。皆さんには国境はありません。

岡山大学はスーパーグローバル牽引大学に選定されています。皆さんの英語力を強化し、皆さんの海外留学経験を倍増し、受け入れる留学生を年間に2,000人、現在の4倍にまで拡大してまいります。美しいキャンパスをグローバルなキャンパスに進化させてまいります。

私は、岡山大学を考えると、岡山大学の前身である、明治3年の岡山藩医学館の創設に深く関わった先人達に敬意を感じ、その師であった緒方洪庵に思いをいたします。緒方洪庵は、現在の岡山市の足守に生まれ、生涯、医学、蘭学の研究に従事し、適塾を大阪に開き、福沢諭吉をはじめ、1000人にも上るすぐれた人材を世に送り出した人物でありました。

この岡山が生んだ偉人、緒方洪庵は、書物の中で、学問は「道の為、人の為」と書き記し、「安逸を思わず、名利を顧みず、ただおのれを捨てて人を救はんことを願うべし。」と書かれています。つまり「学問をするは、世の中の為、また人の為」であり、「労を厭わず努力を重ね、名誉を求めず、自分を捨てて人を救うことを目指せよ。」という教えであります。ここに、大学の教育・研究の存在価値がはっきりと示されています。皆さんも、これからの大学生活を通じて、岡山大学の創始にも大きな影響を与えた、緒方洪庵のこの「道の為、人の為」という視点を胸に刻みこれからの大学生活を送っていただきたいと思います。

本日、皆さんは周囲の大きな期待も背負って、岡山大学の門をくぐられました。今日からは、皆さんは自分で考え、自分で選択し決断をし、大志を抱き、そして高い目標をかかげ、自分の好きなこと、やるべきことに熱中していただきたい。

その積み重ねが、年月を経て、目の前の現実となって現れる日が必ずやってきます。岡山大学は可能な限り、皆さんに高い専門教育と教養、実践知の獲得、グローバル化の手助けをいたします。

大学に入学するという事は、大人への第一歩でもあります。18歳以上の皆さんにはまもなく、投票権も付与されます。今までは様々な形でご家族、社会に見守られてきましたが、これからは独立して人生を歩むこととなります。親元を離れて一人暮らしを始める人も多いことでしょう。しかし、自由とは責任を伴うものです。自らの軽率な行動により、自分を傷つけるだけでなく、家族や友人など、皆さんを支えてくださる多くの方々に悲しませ、信頼を裏切るようなことがないように、まずは、一人の責任ある大人として、これからの大学生活に一層の自覚を持つようお願いいたします。

最後に、

私を含めすべての岡山大学構成員は、新たに仲間に加わった新入生の皆さんとともに、この岡山大学を限りなく美しい大学、世界に輝く、誇りあふれた大学に作り上げる決意であります。

私も岡山大学の卒業生として、ここで学んだことを誇りに思っています。今日ここに、その誇りを共有するべく集まった皆さんに、心から期待をこめてエールを送り、お祝いの言葉としたいと思います。

本日は、まことにおめでとうございました。

平成28年4月2日

国立大学法人岡山大学長 森 田 潔